

蔵書点検

どのようなことをしているの？



目黒区立図書館では年に1回、「蔵書点検」という図書館資料(本、雑誌、CD等)の点検を行っています。蔵書点検とは、本棚にある資料とデータベースの情報を照合して、一致しているか、なくなっている資料はないか、誤った場所に置かれていないかなど、資料すべてを点検・確認する作業です。点検する資料の点数は約130万点です。

蔵書点検は各図書館2日間から4日間かけて行っています。「休館の間、どのようなことをしているのか？」そのような疑問にお答えし、普段は見られない点検作業の様子を一部ご紹介します。

1 資料のバーコードの読み込み作業

点検にあたり、最初は棚にあるすべての資料のバーコードを読み込みます。厚みのあまりない絵本や紙芝居、重たい地図集などもすべて読み込むので、とても根気のいる作業です。



読み込みには「ハンディスキャナー」という機器を使い、手分けして作業を行います。利用者の方が立ち入れない保存庫の資料も、ステップ(足台)に乗ったりしゃがみこんだりして読み込んでいきます。



「ハンディスキャナー」
で1冊ずつ読み込みます



2 データの照合作業

読み込んだ資料のデータと、データベースの情報を照らし合わせ、合っているか、なくなっている資料はないかなどを抽出します。

3 棚の確認・検索

データベースの情報と合わない資料を、リストをもとに探します。

見つかった資料は、ハンディスキャナーでバーコードを読み込みます。間違った場所に並んでいた資料は、正しい場所に戻すことも行い、もう一度データの照合作業を行います。精度を上げるためにこの作業を何度か繰り返し、資料の所在とデータベースの情報を合わせます。



4 棚のレイアウト変更・展示入替

資料の配置を大きく替える作業は、蔵書点検期間中に行います。

また、展示コーナーの入替も行います。新しい展示や使いやすくなった棚で、利用者の皆様をお迎えすべく準備します。



このように蔵書点検では、図書館をより快適にご利用いただくため、様々な作業を行っています。蔵書点検が終わりましたらどうぞご来館ください。

休館期間中はご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。
